

2023 年 5 月 12 日

The Emerging Markets Weekly

米インフレ指標の結果や金融不安の再燃に振れる

新興国市場:先週末 5 日、新興国通貨は概ね上昇した。米金融不安の再燃や FOMC で利上げ停止示唆を背景にドルが軟化したことを背景にアジア時間の新興国通貨は小幅に上昇。MYR は 3 日にマレーシア中央銀行 (BNM) が市場予想外の利上げを決定したことが支援材料となり堅調に推移。欧米時間、米 4 月雇用統計の強い結果となるも、新興国通貨への影響は限定的。商品市況の堅調が支えとなり、MXN、RUB や BRL が上昇した。週初 8 日、アジア時間の新興国通貨は小動き。連休明けの THB の上昇が目立った。欧米時間は、米金利が上昇するもドルの反応は限定的。新興国通貨も大半が狭いレンジ内での推移となった。BRL はブラジル中央銀行 (BCB) の人事への懸念から前日比▲1.2% 下落した。9 日のアジア時間、新興国通貨は前日の米金利上昇が重しとなり軟調。PHP は冴えないフィリピン 4 月貿易統計の結果が嫌気され下落した。欧米時間は翌日に米 4 月消費者物価指数 (CPI) の発表を控え、動意の薄い展開。ZAR は前日比▲1.6% 下落。一方、BRL は小幅に値を上げた。10 日、アジア時間は様子見ムードが広がり、新興国通貨は狭いレンジ内での動き。欧米時間に入り、米 4 月 CPI が 2021 年 4 月ぶりに前年比+5.0% を下回り、市場は米株高・米金利低下・ドル安で反応。RUB と MXN は前日比+1.0% 超値を伸ばし、BRL も堅調。他方、ZAR は前日比▲1.3% と続落となった。11 日、アジア時間は中国 4 月物価統計が市場予想を下振れたことを背景に大半の新興国通貨は小幅に下落する中、KRW は上昇した。欧米時間は米経済指標の冴えない結果や米金融不安再燃を受けて一時ドルは軟化するも、前日から持ち直し新興国通貨の大半は値を下げた。ZAR、MXN の下落が目立った。

アジア:5 日発表のフィリピン 4 月 CPI は前年比+6.6% と 2022 年 8 月以来の低水準となった。5 日発表のインドネシア 1~3 月期実質 GDP は前年比+5.03% と市場予想 (同+4.97%) を上回った。9 日発表の中国 4 月貿易統計では輸出が前年比+8.5%、輸入は同▲7.9%、貿易収支は 902 億ドルの黒字となった。9 日発表のフィリピン 4 月貿易統計は輸出が前年比▲9.1%、輸入同▲2.7% となり、貿易収支は 49 億ドルの赤字となった。11 日発表のフィリピン 1~3 月期実質 GDP 成長率は前年比+6.4% と 2022 年 10~12 月期 (同+7.1%) から鈍化した。市場予想 (同+6.2%) を上回った。11 日発表の中国 4 月 CPI 前年比+0.1% と 3 月 (同+0.7%) から鈍化し、市場予想 (同+0.3%) を下回った。

中東欧・アフリカ:中東欧通貨はチェコ国立銀行のタカ派サプライズがあった CZK を中心に堅調推移。南アフリカでは国内の電力供給懸念が高まり、ZAR は週間で▲4.2% の下落。同国の株式や債券も売りが先行した。

ラテンアメリカ:8 日、BCB の金融政策委員のメンバーにガブリエル・ガリポロ氏、アリソン・アキノ・ドスサントス氏が指名されることが発表され、ガブリエル・ガリポロ氏のハト派な姿勢への警戒感から BRL は下落。9 日発表のメキシコ 4 月 CPI は前年比+6.25% と市場予想 (同+6.22%) を下回った。

市場営業部
マーケット・エコノミスト
堀 堯大
03-3242-7065
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

長谷川 久悟
03-3242-7065
kyugo.hasegawa@mizuho-bk.co.jp

大島 由喜
03-3242-7065
yuki.ooshima@mizuho-bk.co.jp

市場概観(ブラジル)

タカ派姿勢は若干後退も、政権からの利下げ圧力には屈さず

市場営業部
長谷川 久悟
03-3242-7065
kyugo.hasegawa@mizuho-bk.co.jp

ブラジル中央銀行(BCB)は 3 日、金融政策委員会(Copom)を開催し、事前の市場予想通り、政策金利(翌日物金利、Selic)を 13.75%に据え置いた(図表 1)。決定は全会一致で行われ、据え置き判断は 6 会合連続となる。直近では米中堅銀行が米大手銀行に吸収され救済されるなど引き続き金融不安が熾っていたが、BCB としては先行きの高水準のインフレ見通しを重視したようだ。また、ルラ政権からは相変わらず利下げ圧力がかかっているが、これにも屈することはなかった。しかしながら、声明文における今後の政策金利のガイダンスにおいては、「可能性は低いものの、デイスインフレのプロセスが期待通りに進まなければ、引き締めサイクルを再開することを躊躇しない」と前回会合からはややトーンが和らいでいることは強調しておきたい。

インフレ動向に関し、3 月のインフレ率(IPCA)は前年比で+4.65%となり、前月(+5.60%)及び市場予想(+4.71%)を下回った。21 年 2 月以来約 2 年ぶりに中銀によるインフレ目標の上限(23 年は+4.75%)を下回った。インフレ減速をけん引したのは食品・飲料価格であり、+9.8%から+7.3%へ大きく鈍化。一方、コアインフレ率(+7.8%)やサービスインフレ率(+7.6%)の鈍化は緩やかであり、今後のインフレ率は賃金動向などに大きく左右されよう(図表 2)。この点、ルラ大統領からは最低賃金の引き上げが発表されており、5 月 1 日からは月額 1302 レアルから 1320 レアルに引き上げとなった(図表 3)。これはルラ大統領の公約を実行したに過ぎないわけであるが、BCB に対し利下げ圧力をかける一方で、利下げを遅らせる(=インフレを長引かせる)可能性を高める施策を打ってしまったと言って差し支えない。今後もルラ政権と BCB との対立は続こう。

実際、先々のインフレ見通しはじりじりと上方修正が続いている。BCB の市場サーベイ(4 月 28 日集計)によれば、市場参加者の IPCA 見通しは、2023 年で前年比 +6.05%、2024 年で同+4.18%という(図表 4)。前回会合時点の調査より、それぞれ +0.1%ポイント程度上振れている。なお、BCB の見通しによれば、通年のインフレ率に関し 2023 年に前年比+5.8%、2024 年に同+3.6%となっており、こちらは前回会合から不変だった。

また、BCB はインフレの上振れリスクとして、①世界的なインフレ圧力の持続、②新財政規則案に関する不確実性の高まりと、緩慢な財政運営に伴うインフレ率の上昇、③インフレ期待の高まりの長期化、を強調。②に関しては、燃料税の復活や新財政規則案の国会提出を受け財政的な懸念は後退しているとは認めつつ、「インフレ率の収束と財政枠組みとの間には機械的な関係はない」と述べた。あくまで財政とは切り離しつつ、インフレ目標の達成に向け独立した金融政策運営を志向する構えだ。

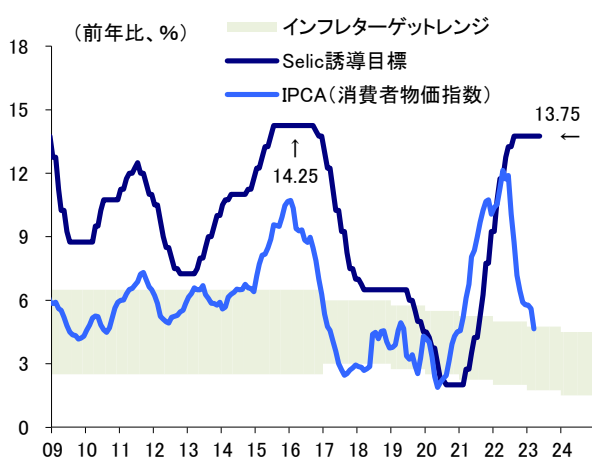
一方で、インフレの下振れリスクは会合ごとに増しつつある印象だ。BCB は、④商品価格のさらなる下落、⑤金融不安に伴う世界経済の予想以上の減速、⑥国内信用供与の鈍化、をリスク要因に挙げた。④に関しては、4 月上旬の OPEC+による原油減産公表以降も原油価格の顕著な上昇が見られないなど、足許で商品価格は軟調な推移を続けている。むろんパンデミック以前より高水準に位置していることは事実であろうが、今後欧米中心に経済の減速が見込まれる中、商品価格の大幅な再上

昇の可能性は低い。もっとも、中国の経済回復の度合いやロシア・ウクライナ戦争の動向に依存する部分も大きいことには注意を払いたい。⑤・⑥に関しては、米金融当局による速やかな対応により国際的な金融不安の波及には今のところには至っていない。ブラジルにおいても例外ではなく、あくまでテールリスクとして考えるべきシナリオだろう。こうした中、上述の BCB サーベイでは、2023 年末の政策金利見通しが 12.50%と前回会合時(12.75%)から下方修正(図表 5)。市場による利下げ期待も徐々に高まっているといえるだろう。

以上、BCB はタカ派姿勢を弱めつつあるとはいえ、いきなりの利下げ転換は見込めない。足許のインフレ率は鈍化傾向にあるが、先行きのインフレ期待が落ち着きを取り戻すことを確認するまでは、利下げ開始は決定されないだろう。さらに、新財政規則案に関する不確実性は高く、国会で承認、そのあと発行されるまでには時間がかかる。その間に見切り発車で利下げ開始とはなるまい。とはいっても、BCB もタカ派一辺倒というわけではない。ネット BCB 総裁は金利低下を望む旨の発言を重ねて行ってきた。デシインフレのさらなる進行をしっかりと確認さえすれば、BCB が利下げに動く確度は高い。さらに BCB は、2024 年末まで 13.75%の金利を維持した場合、インフレ率は 2024 年に+2.9%に低下するといった代替予想を提示した。これはインフレ目標の中央値(24 年:+3.00%)をも下回る数字であり、利下げ開始がそう遠くはないことを示唆しよう。加えて上述の通り、声明文のトーンも着実にタカ派姿勢を弱めていることも見逃せない。本欄では、9 月会合において利下げサイクルが開始されるものと見込んでいる。

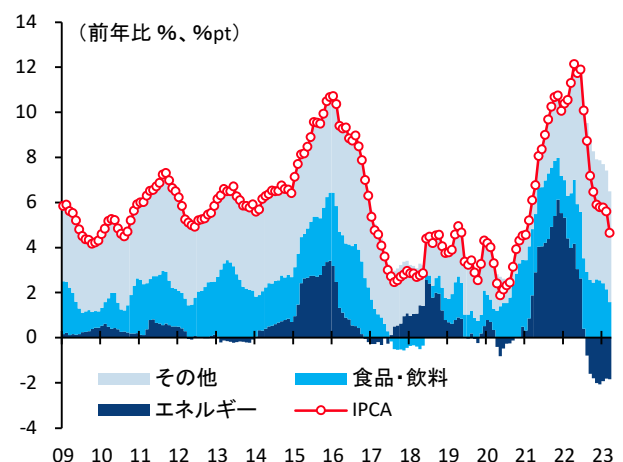
BRL 相場は、3 月中旬以降金融不安の一巡や FRB のタカ派姿勢の弱まり、中国経済の回復期待などを背景に対ドルで堅調推移を続けてきた(図表 6)。ただし、上述の通り年央には BCB の利下げが視野に入中、金利面での BRL のアドバンテージは剥落を余儀なくされよう。また、中国の経済回復に関しても、PMI の推移などを確認する限りサービス業に限られた話であり、製造業循環はいまだ回復途上にある。加えて、4 月中旬以降商品市況は軟調な推移を続けており、実需面も BRL の向かい風となる可能性が高い。以上の要因から、目先数か月の BRL 相場は弱含みとの予測は堅持したい。

図表 1: 政策金利とインフレ率(IPCA)



出所: ブラジル中央銀行、ブラジル地理統計院、ブルームバーグ、みずほ銀行

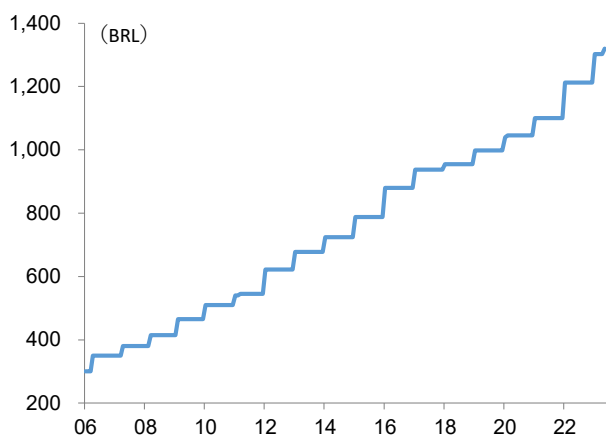
図表 2: インフレ率(IPCA)の品目別寄与度



(注) エネルギーは国内燃料と自動車用燃料の合計

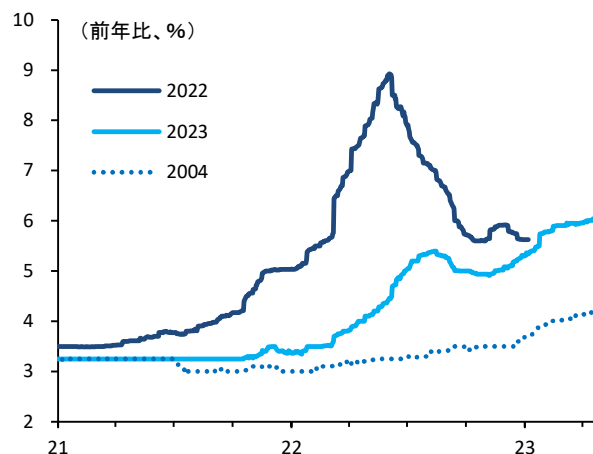
出所: ブラジル地理統計院、ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 3:最低賃金(月額)



出所: Macrobond、みずほ銀行

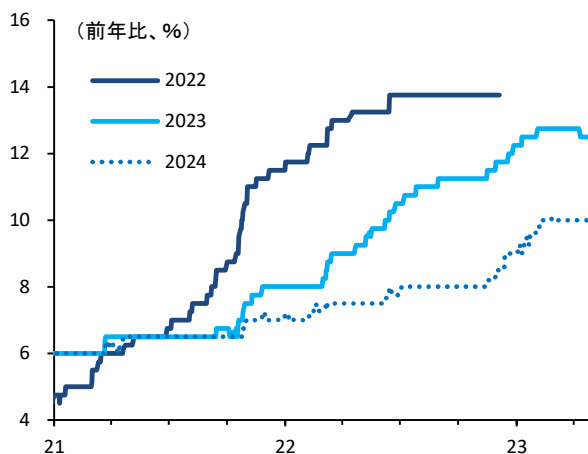
図表 4:BCB 市場サーベイ(年間 IPCA 見通し、中央値)



(注)2023 年 4 月 28 日時点

出所: ブラジル中央銀行、Macrobond、みずほ銀行

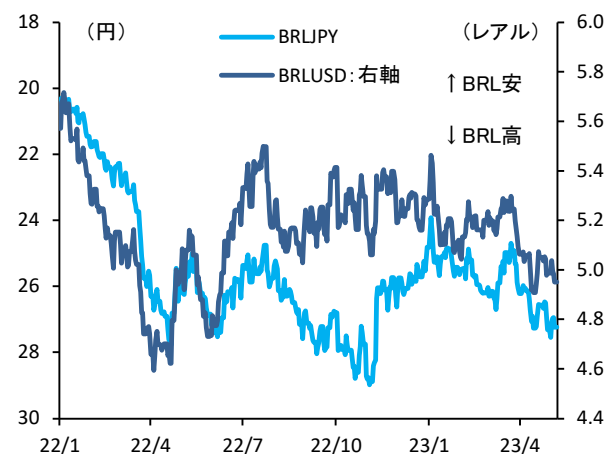
図表 5:BCB 市場サーベイ(年末の政策金利見通し、中央値)



(注)2023 年 4 月 28 日時点

出所: ブラジル中央銀行、Macrobond、みずほ銀行

図表 6: BRL スポットレート(日足)



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

市場概観(新興国)

新興国: 不均衡な景況感回復が続く

市場営業部
長谷川 久悟

03-3242-7065

kyugo.hasegawa@mizuho-bk.co.jp

S&P Global 社が集計するグローバル購買担当者指数(PMI)によれば、4 月製造業 PMI は 49.6 と前月(49.6)から横ばい推移。22 年 12 月の 48.7 を境に中立水準に向け上昇も、8 か月連続で中立水準(50)割れを継続しており、未だに製造業循環は弱い。先進国(48.4→48.5)は新規受注と生産に加え、雇用が改善。新興国(50.7→50.5)では新規受注と雇用の低下が寄与し前月に続き悪化も、ヘッドラインは 50 超えを維持(図表 1、2)。一方、グローバル非製造業 PMI(54.4→55.4)は 5 か月連続で上昇。先進国(53.4→54.6)、新興国(56.7→57.3)いずれにおいてもさらなる上昇がみられた。

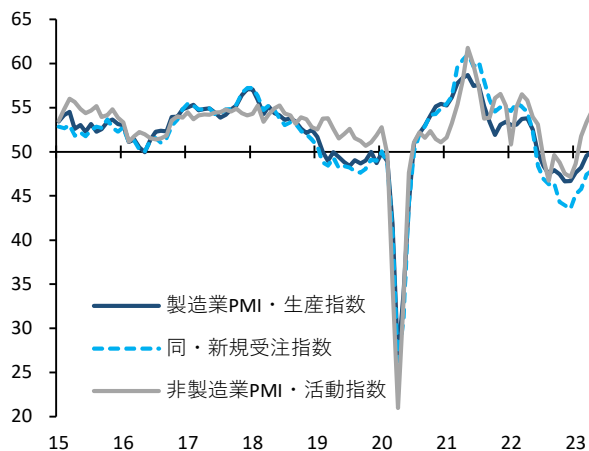
これらを合わせたコンポジット PMI は 54.2 と前月(53.4)から 5 か月連続で改善、21 年 12 月以来の水準を回復した。世界経済の実質 GDP 成長率は 22 年 4～6 月期にわずかながらマイナス成長を記録、7～9 月期の回復を経て 10～12 月期は小幅なプラス成長にとどまった(図表 3)。PMI の推移を確認する限り、23 年 1～3 月期及び 4 月は成長幅を拡大させたものと考えたい。

4 月 PMI の特徴は、製造業と非製造業のコントラストだろう。グローバル PMI に関し、非製造業と製造業との差は 4 月に 5.8 となったが、これは 09 年 1 月以来の大きさである。製造業の底入れの主因がサプライチェーンの正常化であるのに対し、非製造業の回復の要因が需要の拡大であることが明暗を分けている。また、ペントアップ需要発現のタイミングのずれも幾分か影響していよう。

製造業 PMI の構成指数別には、先進国の入荷遅延指数が大きく改善(図表 4)。09 年 4 月以来の水準を記録しており、さらなるサプライチェーンの改善がうかがえる。新興国に関しても 3 か月連続で 50 を上回るなど改善傾向だ。もっとも、利上げによる外需下押しの警戒により、貿易活動は軟調推移を続けている。新興国の新規輸出受注指数は 50 を回復するなど底打ちの兆しこそ見せるも、先進国は 12 か月連続の 50 割れと軟調だ(図表 5)。需要見通しの低迷を反映してか、在庫関連指数も頭打ちの様相を示す(図表 6)。特に、先進国の在庫取り崩しが著しい。他方、生産見通しは先進国、新興国いずれも好調な推移が続く。中期的な生産見通しが堅調な以上、過度な在庫の取り崩しには至らないものと考えたい(図表 7)。

個別の新興国では、中国を中心に東アジアの改善が鈍化していることが気がかりだ。中国は、製造業 PMI(50.0→49.5)、非製造業 PMI(57.8→56.4)いずれも低下。製造業の 50 割れは 3 か月ぶりだ。特に新規受注(50.6→49.3)の悪化が大きく、製造業の先行きに関し強い自信を持ってない。中国製造業の不振に加え、欧米も一定の景気減速が見込まれる中、東アジア各国の PMI は製造業を中心に概ね軟調推移となった。具体的には、香港の製造業 PMI(53.5→52.4)や台湾の製造業 PMI(48.6→47.1)が弱含む結果となった。他地域に目を移すと、ブラジルの製造業 PMI(47.0→44.3)の悪化が目立つ。公表元によると、政治的な不確実性が下押しに寄与したようだ。

(注) 各国・地域別の PMI のグラフについては、5 月 8 日付の通貨ニュースでご確認いただけます。

図表 1: 先進国


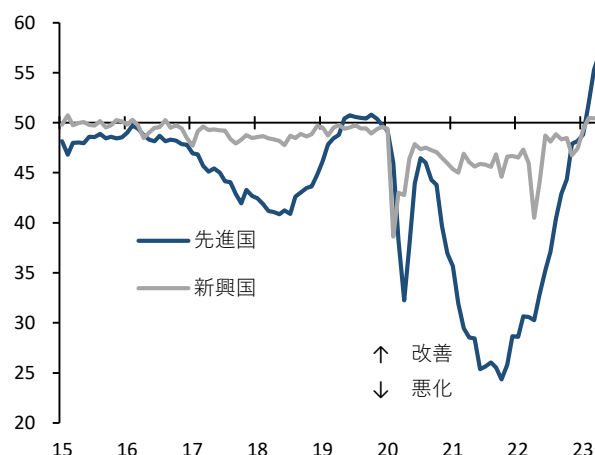
出所: S&P Global、みずほ銀行

図表 2: 新興国

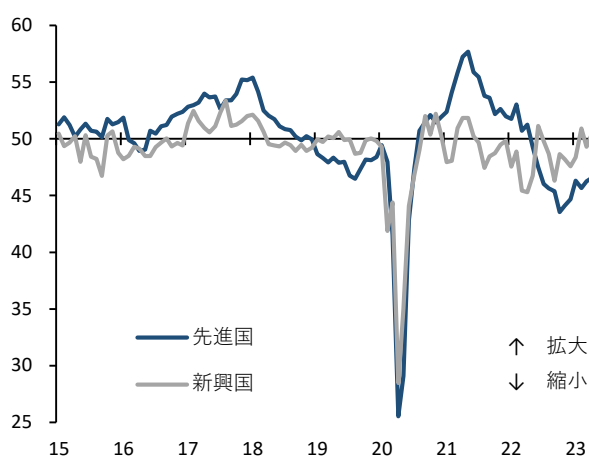

出所: S&P Global、みずほ銀行

図表 3: グローバルのコンポジット PMI と GDP 成長率


出所: S&P Global、ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 4: 製造業 PMI・入荷遅延指数


出所: S&P Global、みずほ銀行

図表 5: 製造業 PMI・新規輸出受注指数


出所: S&P Global、みずほ銀行

図表 6: 製造業 PMI・在庫関連指数


出所: S&P Global、みずほ銀行

図表 7: 製造業 PMI・生産見通し指数


出所: S&P Global、みずほ銀行

図表 8: 非製造業 PMI・活動見通し指数


出所: S&P Global、みずほ銀行

市場概観(マレーシア)

5 月金融政策会合～3 会合ぶりの利上げ再開

市場営業部
マーケット・エコノミスト
堀 堯大
03-3242-7065
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

マレーシア中銀(BNM)は 3 日の金融政策委員会(MPC)で、政策金利を従来の 2.75%から 3.00%に引き上げた。ブルームバーグの事前予想では現状維持の予想が有力であった。BNM は昨年合計で 100bps の利上げを実施してきたが、国内経済の減速懸念を踏まえて、今年に入り利上げを打ち止めていた(図表 1)。

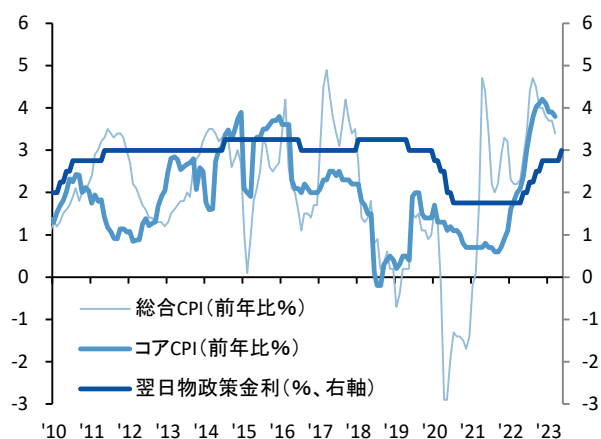
声明文における世界経済に対する見解は前回会合から大きな変化が無かった。高インフレに伴う各国中銀の引き締めや地政学リスクの高まりなどを下振れリスクとした一方、主要国の経済の堅調さや中国経済の再開期待といった景気の押し上げ要因としている。マレーシア経済に関しては、22 年 10～12 月期実質 GDP 成長率が前期比年率でマイナスとなったものの、年間で見れば前年比+8.7%と 2000 年以来の伸びを記録した。年明け以降では堅調な個人消費を背景とした内需動向や労働市場の改善が確認されていることから、BNM は具体的な数字は示さなかったものの、23 年 1～3 月期の結果についてもやや強気な見方をしている。この点については今月中旬公表の結果を待ちたい。その先の景気については、観光関連産業の回復や政府による財政出動が上振れ要因に、世界経済減速と不透明な国際金融市場動向を下振れ要因として指摘した。

物価動向に関して、3 月消費者物価指数(CPI)は前年比+3.4%、生鮮食品と政府による価格統制品を除くコアベースでは同+3.8%となった。過去半年のトレンドを見ると、インフレ鈍化の要因は食料品とエネルギー価格が下落した側面が大きく、コア CPI の数字が総合 CPI を上回る構図となっている(図表 2)。インフレ再加速といった状況には至っていないものの、先述の通り予想以上の内需の勢いもあり、コア CPI の押し下げに時間を要している地合いの中で BNM は今回の追加利上げを決定したものと見られる。なお、BNM は政府による補助金や価格統制、金融市場環境、商品市況に左右される点にも言及しつつ、今年のインフレ予想を前年比+2.8%～+3.8%とした。

今後の動向について、BNM は景気やインフレ動向を示すデータ次第とする姿勢を示した。今回は堅調な国内景気動向、サービス価格をはじめ高止まりするインフレ動向に鑑みて追加利上げに至った格好だが、必要に応じて金融政策の姿勢を柔軟に検討していく可能性を示唆している。

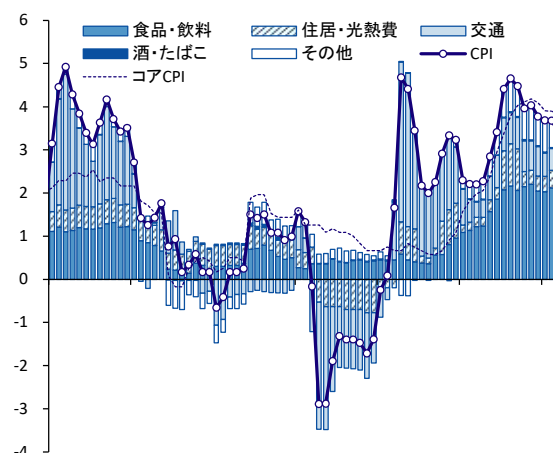
今回の決定を受けて MYR は短期的な変動はあったものの、大きなトレンドの変化は見られていない(図表 3)。BNM の決定自体は市場予想に反する内容であったものの、大型連休中での MYR の上昇は同時期に開催された FOMC の内容を受けてのものが大きいだろう。FOMC では 5 月での利上げ終了の可能性が示唆されて FRB のタカ派姿勢は着実に弱まっている印象であるが、こうした動きはドルインデックスの推移にも色濃く出ているように思える(図表 4)。BNM においても今後 FRB に追随した利上げの必要性は薄れていく中で、今年後半に見込まれる世界景気減速懸念を踏まえれば、今回の会合で利上げは一巡するものと予想する。

図表 1: 政策金利と消費者物価指数(CPI)



出所: マレーシア中央銀行、マレーシア統計局、CEIC、ブルームバーク、みずほ銀行

図表 2: CPI の動向(前年比%、%ポイント)



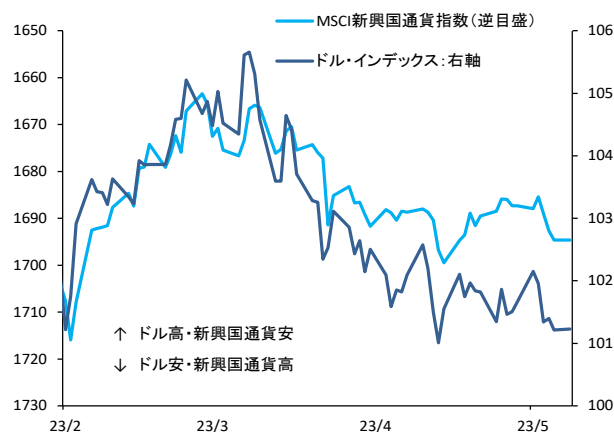
出所: マレーシア統計局、CEIC、みずほ銀行

図表 3: MYR の動向



出所: ブルームバーク、みずほ銀行

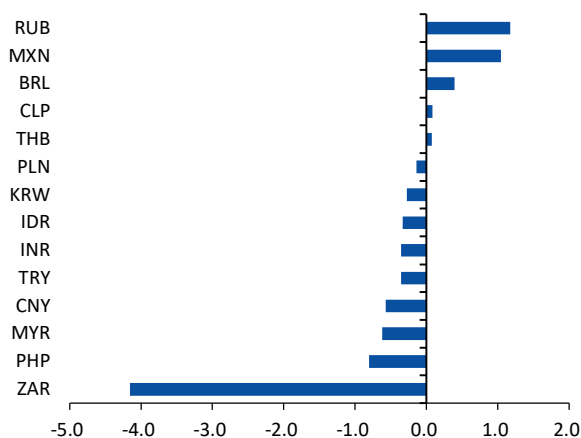
図表 3: ドルインデックスと新興国通貨インデックス



出所: ブルームバーク、みずほ銀行

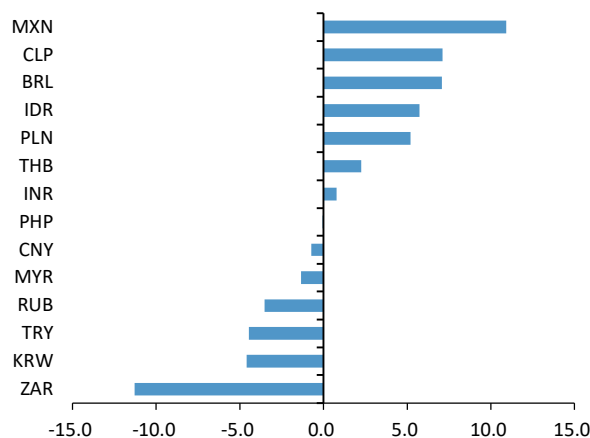
資産別騰落率

為替週間騰落率(対ドル、%)



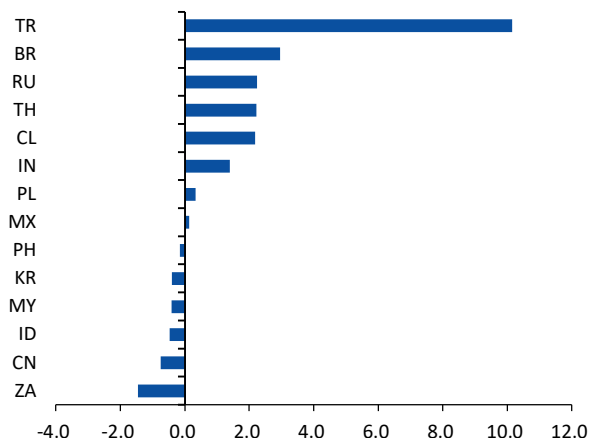
出所: ブルームバーク、みずほ銀行

為替年初来騰落率(対ドル、%)



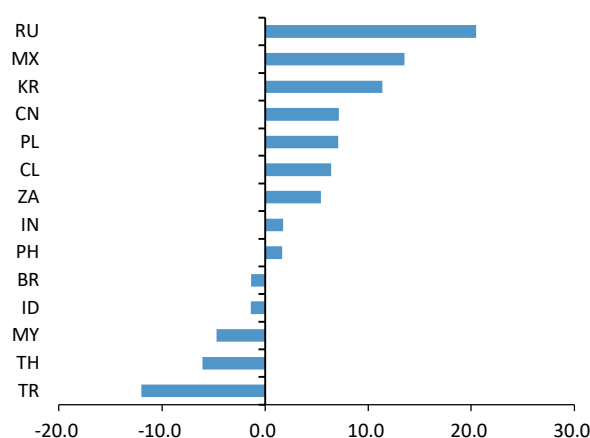
出所: ブルームバーク、みずほ銀行

株価週間騰落率(%)



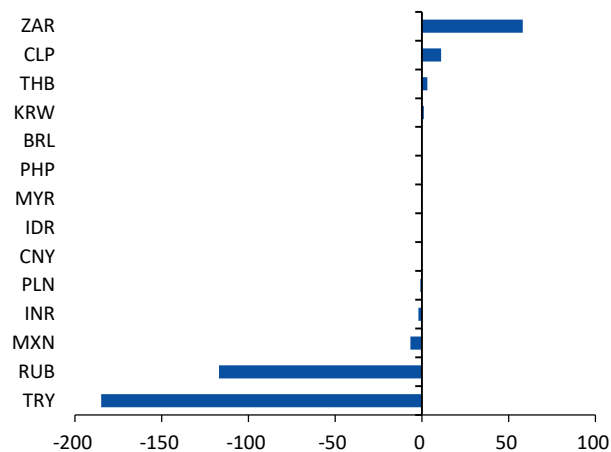
出所: ブルームバーク、みずほ銀行

株価年初来騰落率(%)



出所: ブルームバーク、みずほ銀行

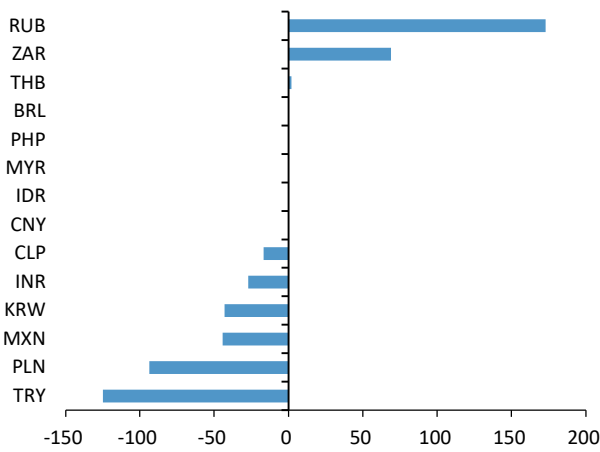
5 年物スワップレート週間変化(bp)



注: データの都合によりブラジルの値は未掲載。

出所: ブルームバーク、みずほ銀行

5 年物スワップレート年初来変化(bp)

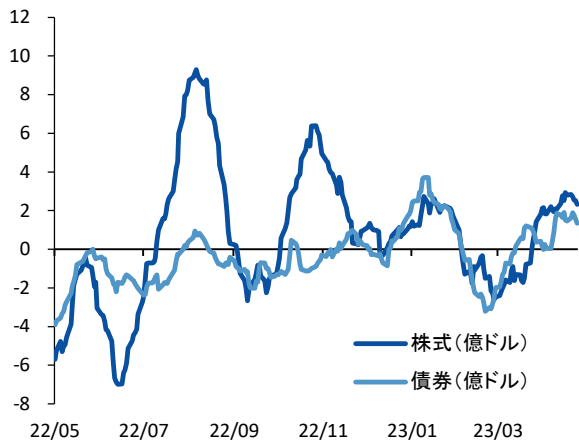


注: データの都合によりブラジルの値は未掲載。

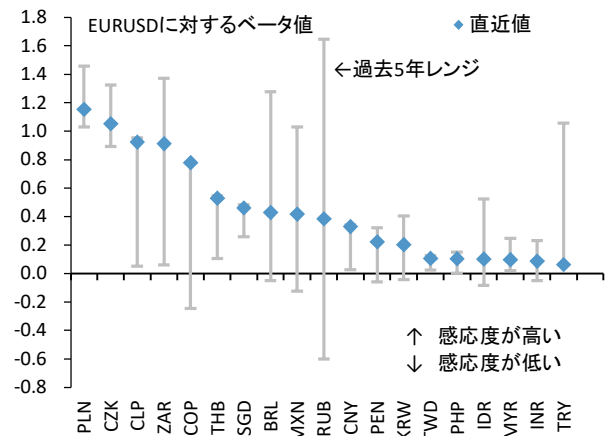
出所: ブルームバーク、みずほ銀行

チャート集

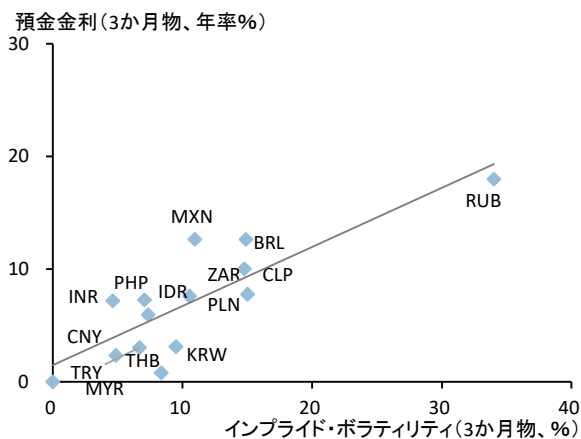
主要新興国への証券投資(4 週間移動平均)



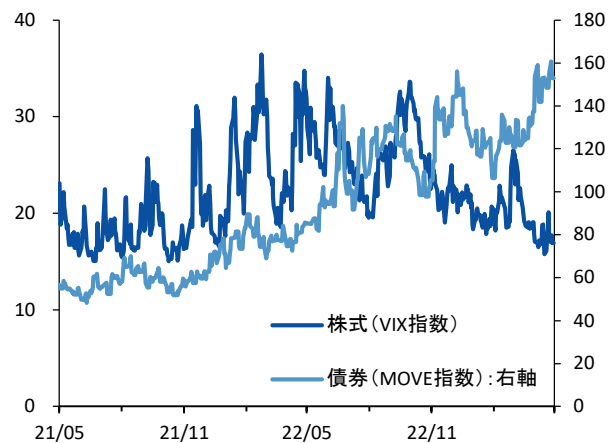
EM 通貨(対ドル)の EURUSD に対する感応度(過去 12 か月)



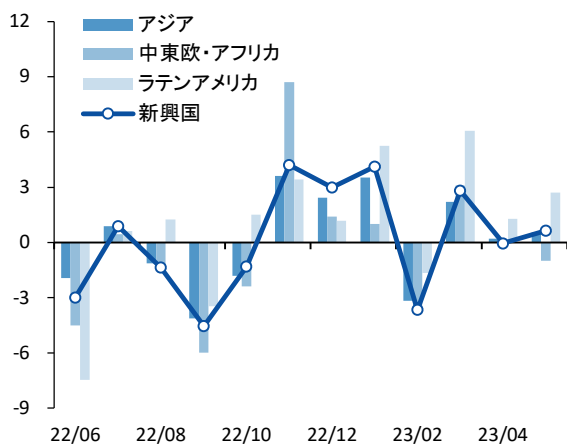
新興国の預金金利と為替ボラティリティ



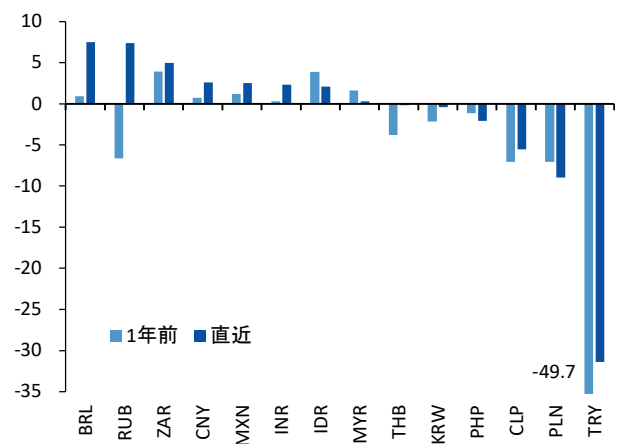
株式と債券のボラティリティ(VIX 指数、MOVE 指数)



新興国現地通貨建て国債月次パフォーマンス(%)



実質金利(10 年物国債金利 - 消費者物価上昇率、%)



新興国経済カレンダー

日付	国	経済指標・イベント	市場予想	発表値	前回値	修正値
エマージングアジア						
5月8日 (月)	台湾	貿易収支	\$4.10b	\$6.71b	\$4.22b	--
9日 (火)	フィリピン	貿易収支	-\$4503m	-\$4928m	-\$3877m	--
9日 (火)	マレーシア	鉱工業生産(前年比)	0.6%	3.1%	3.6%	3.5%
9日 (火)	中国	貿易収支	\$71.25b	\$90.21b	\$88.19b	--
9-15日	中国	新規人民元建て融資(CNY)	1400.0b	718.8b	3890.0b	--
10日 (水)	韓国	国際収支:経常収支	--	\$267.9m	-\$518.4m	--
11日 (木)	中国	CPI(前年比)	0.3%	0.1%	0.7%	--
11日 (木)	中国	PPI(前年比)	-3.3%	-3.6%	-2.5%	--
11日 (木)	フィリピン	GDP(前年比)	6.2%	6.4%	7.2%	7.1%
12日 (金)	マレーシア	GDP(前年比)	5.0%	--	7.0%	--
12日 (金)	インド	鉱工業生産(前年比)	3.3%	--	5.6%	--
12日 (金)	インド	CPI(前年比)	4.8%	--	5.7%	--
14-18日	フィリピン	Overseas Cash Remittances YoY	3.2%	--	2.4%	--
15日 (月)	タイ	GDP(前年比)	--	--	1.4%	--
15日 (月)	インドネシア	貿易収支	--	--	\$2910m	--
15日 (月)	インド	卸売物価(前年比)	-0.3%	--	1.3%	--
15日 (月)	インド	輸出(前年比)	--	--	-13.9%	--
15日 (月)	インド	輸入(前年比)	--	--	-7.9%	--
16日 (火)	中国	鉱工業生産(前年比)	10.8%	--	3.9%	--
16日 (火)	中国	小売売上高(前年比)	22.0%	--	10.6%	--
16日 (火)	中国	固定資産投資(除農村部/年初来/前年比)	5.6%	--	5.1%	--
17日 (水)	シンガポール	非石油地場輸出(前年比)	--	--	-8.3%	--
18日 (木)	フィリピン	BSP翌日物借入金利	--	--	6.25%	--
18-22日	フィリピン	総合国際収支	--	--	\$1267m	--
19日 (金)	マレーシア	輸出(前年比)	--	--	-1.4%	--
中東欧・アフリカ						
5月10日 (水)	トルコ	鉱工業生産(前年比)	-0.3%	-0.1%	-8.2%	--
11日 (木)	トルコ	経常収支	-5.30b	-4.48b	-8.78b	--
11日 (木)	南ア	製造業生産(季調前/前年比)	-5.8%	-1.1%	-5.2%	--
12日 (金)	ロシア	CPI(前年比)	2.4%	--	3.5%	--
16日 (火)	南ア	南アフリカ失業率	--	--	32.7%	--
17日 (水)	南ア	小売売上高(実質値、前年比)	--	--	-0.5%	--
17日 (水)	ロシア	GDP(前年比)	--	--	-2.7%	--
ラテンアメリカ						
5月9日 (火)	メキシコ	CPI(前年比)	6.2%	6.3%	6.9%	--
10日 (水)	ブラジル	鉱工業生産(前年比)	0.5%	0.9%	-2.4%	--
11日 (木)	メキシコ	ANTAD既存店売上高(前年比)	--	6.2%	4.1%	--
12日 (金)	メキシコ	鉱工業生産(季調前/前年比)	2.5%	--	3.5%	--
12日 (金)	ブラジル	IBGEインフレ率IPCA(前年比)	4.1%	--	4.7%	--
17日 (水)	ブラジル	小売売上高(前年比)	--	--	1.0%	--
19日 (金)	メキシコ	オーバーナイト・レート	11.25%	--	11.25%	--
19日 (金)	メキシコ	小売売上高(前年比)	--	--	3.4%	--
19日 (金)	ブラジル	経済活動(前年比)	--	--	2.8%	--

注: 2023 年 5 月 12 日現在、信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性を全面的に保証するものではありません。
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

為替相場見通し

		2023年 1～4月（実績）	SPOT	2023年 6月	9月	12月	2024年 3月	6月
対ドル								
エマージングアジア								
中国人民元	(CNY)	6.6910 ～ 6.9774	6.9489	6.80	6.75	6.70	6.65	6.60
香港ドル	(HKD)	7.7920 ～ 7.8500	7.8369	7.84	7.84	7.82	7.80	7.76
インドルピー	(INR)	80.883 ～ 82.949	82.090	81.5	83.8	82.0	80.4	79.6
インドネシアルピア	(IDR)	14633 ～ 15643	14722	14800	15600	15000	14900	14800
韓国ウォン	(KRW)	1216.30 ～ 1342.87	1326.07	1360	1330	1310	1290	1270
マレーシアリングギ	(MYR)	4.2250 ～ 4.5315	4.4640	4.38	4.55	4.43	4.36	4.28
フィリピンペソ	(PHP)	53.628 ～ 56.376	55.762	54.8	55.5	53.8	53.5	53.0
シンガポールドル	(SGD)	1.3032 ～ 1.3576	1.3314	1.33	1.37	1.33	1.34	1.33
台湾ドル	(TWD)	29.608 ～ 30.915	30.740	30.5	31.2	30.7	30.0	29.5
タイバーツ	(THB)	32.57 ～ 35.39	33.84	33.6	34.5	33.6	32.8	32.7
ベトナムドン	(VND)	23434 ～ 23858	23466	23600	24500	23800	23700	23600
中東欧・アフリカ								
ロシアルーブル	(RUB)	67.0415 ～ 83.2879	76.8949	80.0	82.0	84.0	86.0	88.0
南アフリカランド	(ZAR)	16.6950 ～ 18.7192	19.1830	17.5	18.2	18.4	18.6	18.8
トルコリラ	(TRY)	18.4339 ～ 19.7079	19.5816	22.0	20.0	19.0	20.0	22.0
ラテンアメリカ								
ブラジルレアル	(BRL)	4.8955 ～ 5.4798	4.9324	5.20	5.15	5.10	5.12	5.15
メキシコペソ	(MXN)	17.8981 ～ 19.5882	17.5852	18.5	18.8	19.0	19.1	19.2
対円								
エマージングアジア								
中国人民元	(CNY)	18.793 ～ 19.847	19.359	20.00	20.59	20.60	20.60	20.61
香港ドル	(HKD)	16.295 ～ 17.568	17.170	17.35	17.73	17.65	17.56	17.53
インドルピー	(INR)	1.559 ～ 1.680	1.639	1.67	1.66	1.68	1.70	1.71
インドネシアルピア	(100IDR)	0.831 ～ 0.930	0.914	0.919	0.891	0.920	0.919	0.919
韓国ウォン	(100KRW)	9.915 ～ 10.743	10.148	10.00	10.45	10.53	10.62	10.71
マレーシアリングギ	(MYR)	29.106 ～ 31.133	30.174	31.05	30.55	31.15	31.42	31.78
フィリピンペソ	(PHP)	2.325 ～ 2.494	2.413	2.48	2.50	2.57	2.56	2.57
シンガポールドル	(SGD)	96.55 ～ 102.18	101.06	102.49	101.61	103.45	102.09	102.64
台湾ドル	(TWD)	4.205 ～ 4.494	4.380	4.46	4.46	4.50	4.57	4.61
タイバーツ	(THB)	3.770 ～ 3.999	3.977	4.05	4.03	4.11	4.18	4.16
ベトナムドン	(10000VND)	0.5430 ～ 0.5821	0.5733	0.58	0.57	0.58	0.58	0.58
中東欧・アフリカ								
ロシアルーブル	(RUB)	1.593 ～ 1.948	1.750	1.70	1.70	1.64	1.59	1.55
南アフリカランド	(ZAR)	7.027 ～ 7.863	7.013	7.77	7.64	7.50	7.37	7.23
トルコリラ	(TRY)	6.689 ～ 7.289	6.825	6.18	6.95	7.26	6.85	6.18
ラテンアメリカ								
ブラジルレアル	(BRL)	23.723 ～ 27.348	27.270	26.15	26.99	27.06	26.76	26.41
メキシコペソ	(MXN)	6.651 ～ 7.650	7.652	7.35	7.39	7.26	7.17	7.08

注: 1. 実績の欄は 2023 年 4 月 30 日まで。SPOT は 5 月 12 日の 7 時 30 分頃。

2. 実績値はブルームバーグの値。

3. 予想の欄は四半期末の予想。

出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。